



信金中央金庫  
SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所  
ニュース&トピックス  
(2018.1.26)

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7 TEL.03-5202-7671 FAX.03-3278-7048  
URL http://www.scbri.jp e-mail : s1000790@FaceToFace.ne.jp

中小企業の2018年の経営見通しは昨年比で改善

- 自社の業況見通しは調査開始以降最高水準に -

馬場 亮太

ポイント

- ▶ 信金中央金庫 地域・中小企業研究所がとりまとめている全国中小企業景気動向調査の結果をもとに2018年の「日本の景気見通し」の「DI(「良い」-「悪い」)」をみると、昨年と比べ上昇し、明るい見通しとなっている。
- ▶ 「自社の業況の見通し」についても、1992年の調査開始以来最高水準であり、「日本の景気見通し」同様に明るい見通しが広がっている。

はじめに

信金中央金庫 地域・中小企業研究所では、全国の信用金庫の協力を得てとりまとめている「全国中小企業景気動向調査」を四半期ごとに公表している。

とりわけ、毎年10~12月期の特別調査(調査時期は毎年12月初旬)では、翌年の経営見通しについて定点観測を行っている。

そこで本稿では、2017年12月に調査した「2018年の日本の景気見通し」、「2018年の自社の業況見通し」の結果を概観する。

1. 見通しは改善、バブル崩壊後の最高水準に

2018年の我が国の景気見通しについては、「良い」(「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計)から「悪い」(「非常に悪い」・「悪い」・「やや悪

い」の合計)を引いたD.I.は、4.5となり、1年前の調査(32.8)と比べて28.3ポイントの大幅な上昇となった。過去と比較すると、2014年調査以来2番目に高い水準となった(図表1)。

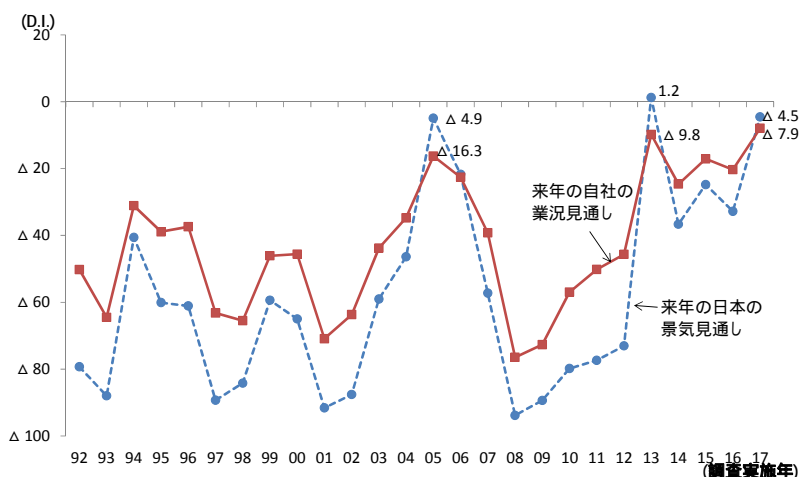
また、2018年の自社の業況見通しも同様に、「良い-悪い」が7.9となり、1年前の調査(20.3)に比べて12.4ポイント上昇した。こちらは、1992年の調査開始以来最も高い水準となった。我が国の見通し、自社の見通しとも高い水準にあり、全体的に明るい見通しが広がっているといえよう。

2. 見通し改善の背景に「普通」の回答割合の増加

底だった2008年調査から今回の調査について、「良い」「普通」「悪い」の3つの割合の推移をみると、景気見通し、業況見通しともに「良い」が増加しており、全体の改善に寄与している。加えて、「悪い」の回答割合が著しく低下しており、「良い」の増加以上に見通しの改善に大きく寄与していることがわかる(図表2)。

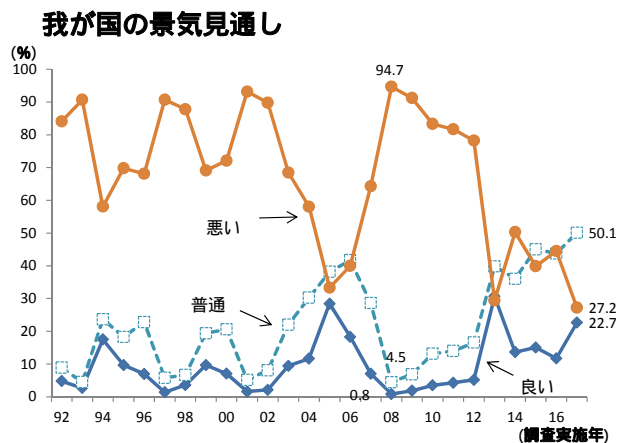
また、「普通」の回答割合は、景気見通し、業況見通しともに2008年調査を底に急激に高まって半数を超え、調査開始以来の最高の水準となった。これまで「悪い」と回答していた企業の

(図表1) 来年の経営見通しDI

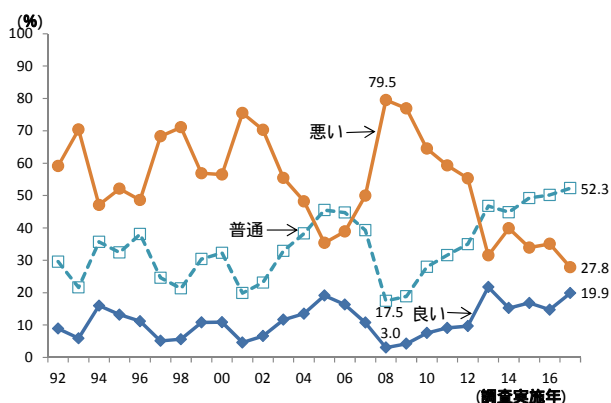


(備考) 全国中小企業景気動向調査をもとに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表2) 来年の経営の見通し



自社の業況の見通し



(備考) 全国中小企業景気動向調査をもとに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

多くが「普通」と回答してきていることがうかがえる。

この結果からは、経営の現状を積極的に「良い」とまでは評価できる中小企業はまだ多くはないものの、少なくとも喫緊の懸念はなくなっているものと読み取れよう。

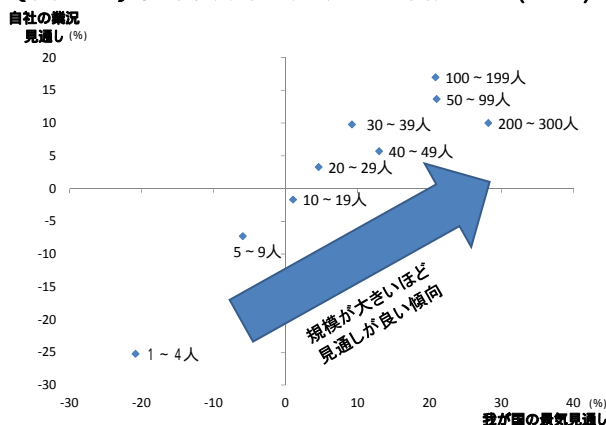
一方、今回の調査結果を従業員規模別でみると、従業員 20 人以上の企業では景気見通し、見通しともに軒並み「良い」が「悪い」を上回る一方で、従業員 10 人未満の企業では「悪い」が「良い」を上回っている(図表3)。中規模企業の改善が進むなかで、規模間の格差はむしろ拡大傾向にある。

おわりに

アベノミクス以降の景気回復を受け、中小企業の先行き景況感には明るさがみられる。今後は、この明るさが規模の小さな企業にも広がっていくことを期待したい。

以上

(図表3) 従業員規模別に見た経営見通し(D.I.)



(備考) 全国中小企業景気動向調査をもとに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(景況見通しに関するコメント)

- ・仕入れ価格が安定しないことから、景気回復を実感するには時間がかかる。(サッシ・ガラス 建材製造 青森県)
- ・東京五輪まではインバウンド観光が見込めることから、業況安定して推移していく。(飲食業 山梨県)
- ・若年層の車離れと既存顧客の高齢化により経営環境は厳しさを増している。(自動車整備 兵庫県)
- ・タイ・シンガポール向けの農業機械販売は安定しており、今後の見通しも明るい。(自動車整備 愛知県)
- ・仕事はあるが、人手不足が深刻であり厳しい収益環境が続く。(土木工事 岡山県)
- ・設備導入効果もあり、今後の売上・利益ともに好調の見通し。(板金加工 新潟県)

(参考)

第170回全国中小企業景気動向調査の概要

1. 調査時点：2017年12月1日～7日
2. 調査方法：全国各地の信用金庫営業店の調査員による、共通の調査表に基づく「聴取り」調査
3. 標本数：15,697 企業(有効回答数 14,230 企業・回答率 90.7%)  
有効回答数のうち従業員数 20 人未満の企業が占める割合は 71.6%
4. 分析方法：各質問項目について、「増加」(良い) - 「減少」(悪い)の構成比の差 = 判断DIに基づく分析